

第659回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1. 庄内川しゅんせつ事業 名古屋市中川区下之一色町～富田町

- ・庄内川は2000年の東海豪雨を受けて、激甚災害対策特別緊急事業（2000年度～2004年度）で河道しゅんせつを実施したが、激特事業実施後も同レベルの豪雨があった場合は計画高水位を超える洪水量が見込まれ、河道しゅんせつを継続して実施。
- ・国土交通省庄内川河川事務所は、2017年度に全国に先駆けてICT施工の河川しゅんせつを実施。
- ・2017年度に実施した河道しゅんせつ工は、全国の地方整備局に先駆けて、国土技術政策総合研究所とともにICT試験施工を実施。ICT試験施工は3件行い、しゅんせつ量は計16,700m³であった。
- ・マルチビームソナーを用いて、3次元起工測量と出来形測量を実施したところ、従来手法（深淺測量）の1日当たり作業量の約2倍に効率化が可能となり、MG（マシンガイダンス）バックホウによる浚渫で水中部での正確かつ効率的な掘削を実現。
- ・現在、一色大橋上流～新前田橋間において4件の工事でICTしゅんせつ工事を実施しており、しゅんせつ土量は約50,000m³を見込んでいる。



2. 一般県道羽島稲沢線（新濃尾大橋（仮称））建設事業 … 一宮市東加賀野井～岐阜県羽島市下中町

- ・木曽川に架かる濃尾大橋の慢性的渋滞の解消と県境を越えた広域的な結びつきの強化を図るための事業。
- ・東海道新幹線木曽川橋梁、名神高速道路木曽川橋の下流1km付近にて架橋を進めている。
- ・新濃尾大橋（仮称）は橋長759m、幅員11.5mの鋼5径間連続非合成箱桁橋（423m）＋鋼4径間連続非合成箱桁橋（336m）で構成。
- ・橋脚にはニューマチックケーソン工法を採用。支持層が深く、構造高が50mを越えるため、1回の非出水期での施工が困難。このため、2回の非出水期に分けて工事を実施。
- ・架橋位置には希少種の淡水魚の生息するワンドが広がっているため、環境保全にも配慮している。



3. 名古屋港金城ふ頭地区ふ頭再編改良事業 名古屋市港区金城ふ頭

- ・名古屋港は、完成自動車の輸出取扱台数が我が国の約4割を占め、全国第一位である。
- ・現在、完成自動車を取り扱う公共ターミナルは、金城ふ頭と弥富ふ頭に分散されており、点在する保管用地の利用や横持ち輸送を行っているため、保管・輸送コストが増大し、非効率な輸送形態となっている。
- ・また、近年は自動車運搬船の大型化により、既存岸壁の水深不足が顕著となっており、さらに、大規模地震発生時における完成自動車輸送に対応可能な岸壁が無い状況である。
- ・そのため、ふ頭再編改良事業として、金城ふ頭に完成自動車を取り扱う岸壁を集約し、大規模地震発生時の物流機能を確保できる耐震強化岸壁（水深12m）を整備するものである。
- ・金城ふ頭岸壁（水深12m）は、ハイブリッドケーソン構造を採用し整備を行っている。

